

今年の冬は暖冬といわれていますが、確かに暖かい。東京は11月7日、100年ぶりに11月の最高気温27.5度を記録しています。忘年会のシーズンもこのまま暖かければと思います。

さて今月号も盛りだくさんの内容となっています。

まず令和5年10月1日に行われた第10回県民健康フェアの報告を稲富仁先生がされています。コロナの影響で実に4年ぶりの開催となりました。テーマは「あなたの健康はみんなの幸せ ー身も心も健やかにー」で参加者は約800人でした。医療福祉関係の17団体がそれぞれのブースで活動していて、医師会のブースでは医師による健康相談、心肺蘇生法の講習・体験、血圧測定、骨密度、糖化度・体組成の測定などが行われました。例年参加者は高齢者が多いと思われていますが、今回は約半数が40歳代以下であり初回参加の方が73%と多かったようです。感想も91%の方が良かったと評価していただき大盛況のうちに終了しました。

次に宮里達也先生による台中市医師公会訪問記で、9月16日から3日間の報告記となっています。台中市医師公会と沖縄県医師会は2004年に姉妹会血盟が調印され何度も訪問しましたが、コロナの流行後訪問は途切れていました。今回6年ぶりの訪問ですが、2日目に地域医療向上のための取り組みの勉強会が行われました。「地域医療グループの実際の活動状況」と「IT医療連携について」の2つのテーマで行われたようですがコロナ対応での台湾のITを駆使した対応が思いだされます。またコロナが猛威を振るっていた時期に、台中市医師公会、台北市医師公会、台湾国から多くの医療資材の提供を受けたことを知り、今後もさらに友好関係が進展することを願います。

生涯教育コーナーでは佐藤浩信先生による「海洋危険生物による刺咬傷とその対処法、ハブクラゲを中心に」が掲載されています。非常に興味深い内容でハブクラゲは沖縄での被害総数の44.8%を占めていて、主に7～9月の夏休み期間に起こっています。この3年間毎年、心肺蘇生が必要となる例が報告されていて過去に3件の死亡例があります。応急処置として食酢を使うのが知られていますが、最近被害が増えているカツオノエボシなどは、食酢の使用はかえって有害なことなど興味深い内容が記されています。

その他、月間行事の項では成田雅先生による「HIVとともに生きる方々を支えるために」という報告があります。沖縄は2021年の新規HIV感染症者数（人口10万対）は東京都について第二位で新規AIDS患者報告数（人口10万対）は第一位でした。HIV感染者の多くが抗ウイルス薬を投与され安定していて、高血圧や糖尿病などの併存疾患やメンタルの問題に対応する機会が増えています。しかし沖縄は抗ウイルス薬の処方できる医療機関が少なく、HIV感染症をみる医師も少ないため今後増やすことが大切であると述べられています。また医師だけでなく、様々な職種によるチーム医療も必要です。

このように今回も医師会報は盛りだくさんであり読み応えがあります。著者の皆さんには本当に感謝いたします。

広報委員 古堅 善亮